

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 2 月 8 日

### 【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491700146		
法人名	有限会社アドバンス		
事業所名	ふれあいの家		
所在地	広島県府中市中須町1412-1		
	電話番号	0847-47-1006	
自己評価作成日	令和6年 1 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和6年 2 月 29 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 6 年 1 月 29 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所コンセプトとして</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・当たり前の暮らしを取り戻し、夢を実現できる場所。</li><li>・生きること自体を楽しめる場所。</li><li>・誰でも立ち寄れる町の駅。</li></ul> <p>に力を入れています。入所者一人ひとりのこれまでの生活、こだわり、その人自身を知り、それをそのまま施設で行っていく。その中で思い出の場所や居場所、日々の役割を持ち楽しんで生活していただくこと。また諦めていた夢ややってみたかったけどできなかったことに職員と挑戦し、夢を実現し人生をもう一度楽しんでいただくことを大切にしています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街の中にあり、静かな環境である。目の前にはお庭の素晴らしいお寺がある。散歩時にはお庭を見ながら手を合やす事もあり、安らぎが感じられる場所である。コンセプトにもあるが、個々のこれまでの暮らしを大事にし、日々役割を持ち、生きがいを持てるような支援を心掛け、食事づくりは、献立から下ごしらえ、味付けなど利用者のこれまでの経験を活かしてもらえよう声かけしがり職員と共に愉しくされ、日々役割を持ち、張りのある生活に繋げると共に力量発揮の場面作りもされている。食材も常に旬の材料を使い、その時々季節感を感じてもらい、食が楽しみとなる様務めていると共に一人ひとりの思いには可能な限り対応し、これまでの生活歴が継続出来る支援を大切にされ、自分らしく穏やかに暮らして頂くよう全職員がブレのない支援を心掛けている。地域との関わりもコロナ禍の為、十分ではないが、清掃活動への協力、子供会、地域への発信を積極的に行い、コロナ状況が緩和されれば以前の様な交流に取り組み、利用者が住み慣れた地で地域の方々と共に安心して生活できる環境づくりに努めている。今では地域に根づいた事業所となり、地域の一員としての理解も得られ、安心できる事業所である。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全従業員に理念の冊子を配布。 毎朝、朝礼にて唱和し共有している。 (現在はリモートで行っている)全員参加による理念の勉強会を開催している。	毎日の朝礼で唱和し、再認識する事と共に反省と振り返る機会とし、全職員が理念を共有し、統一した支援を心掛け、日々実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、見守り隊などの活動へ参加している。 地域の子供たちがいつでも立ち寄れることを子ども会へ案内し、顔なじみの関係が出来るよう交流会を行っている。	コロナ禍の為、以前の様な交流はできていないが、町内会に加入している為、地域の情報は得られていると共に事業所としての取り組みも各団体に伝え、状況が良くなれば以前の様な交流ができる様取り組まれている。地域の清掃活動には参加はしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での話し合い。子ども会との交流イベントを開催し、利用者と交流する機会を設け居ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、情報共有を行っている。 資料を送付、活動状況報告行う。	コロナ感染予防の為、状況を見ながら、年数回は開催し、町内会長や民生委員、地域の各役員の方数名、家族数名、行政等の参加の下、利用状況や取り組み等、多岐にわたり報告し、個々の参加者の意見を得、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苦情などの情報に対しての報告を行っている。運営についての相談も担当者と随時行っている。	事例や疑問等があれば気軽に相談できる関係であり、現状や取り組み等についても積極的に伝え、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の身体と心の制限を行わないことを徹底し、玄関の施錠はもとより、薬による心の制限も行わないよう取り組んでいる。	基本身体拘束はしない方針であり、玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。見守り重視で対応されている。研修もリモートで行い全職員正しく理解されている。センサーの利用もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行っている(合同勉強会+施設の研修計画によるweb学習)。委員会を設置し、2か月に1回は検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の研修計画によるweb学習を職員の経験に応じて実施している。 また、必要に応じて外部研修へ参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者から日ごろの様子を書面や電話で伝え、利用者と家族の思いを共有できるよう努めている。	訪問時や毎月の請求書を送付する際、ホーム便りや日頃の様子を書面にて報告し、その際に意見や要望について聞くように努めている。電話で報告す時にも聞いている。何でも言ってもらえる様な雰囲気づくりに留意し、色んな場面での意見等はミーティング等で話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、話し合う場を設けている。 不定期で個別面談の機会を持っている。	日々のケアの中で気がつきがあれば聞くようにすると共に申し送りやミーティング等で聞く機会を持ち、多くの意見の把握に努め、運営に反映させている。個人面談の機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人個人との面談の場や、頑張っている人が評価される仕組みづくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の研修計画による定期的な研修を経験と役職に応じて実施している。新人に対する研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職能団体への入会を推奨し(資格手当増額)、開催される研修や交流会への参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階から要望や思いを聞き、それが実現できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から思いや要望を聞きながら信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けている段階で、他のサービス等を利用することで在宅生活が行えそうであれば提案している。(入居後も同様)。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人として学びあいながらお互いが成長できる関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも情報共有し、時には食卓を囲んだり、一緒に出掛けたり、共に支えあっている関係性を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同窓会への出席やなじみの人に会いに行くなど、それまでの関係が当たり前につながるような活動を行っている。	コロナ禍ではあるが、訪問の依頼には柔軟に対応し玄関等でお会いしてもらい、家族との絆が途切れない支援を心掛けている。馴染みの美容院を利用されたり、お盆やお正月には日帰りで帰宅する等、思いに対しては、感染予防を徹底し対応されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中でその人にとっての役割を持って生活をしながらお互いさまの関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ住み替えた方と交流をするなど、積み上げた関係性が継続できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人のこだわりや大切にしていることなどを本人や家族友人から聞くことで、思いや意向をしっかりと把握するように努めている。	日々の会話や利用者同士の会話などから把握する事がある。又、生活歴や家族の協力を得ながら、個々の思いには出来る限り対応している。表出困難な方にも声かけや生活歴から把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の年表作成や自宅訪問を行い、その人の生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中でその人にとっての役割や過ごし方、落ち着ける居場所の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、計画作成者、職員、家族、本人と話し合いを行っている。	家族や本人の要望、主治医の所見、職員からのニーズや課題についての意見や提案等を基に検討し柔軟且つ現状に即した計画を作成している。見直しは3ヶ月、モニタリングは毎月となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調などの管理だけではなく、暮らしの中の気づきや本人の思いなども個人記録に記入し、積極的に共有していく仕組みにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の思いや要望がかなえられるよう、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事などに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医に相談し、希望する医療機関への受診を支援している。	協力医療機関の往診が月2回、訪問歯科支援もある。又、他科については通院は家族となっているが、柔軟に通院支援はしている。非常勤ではあるが看護師の職員がいる為、日々健康管理ができていて安心であると共に協力医療機関も24時間指示が得られる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職だけではなく、薬剤師、主治医とも連携し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーとの連絡をとり、現状の把握と、(早期退院を望む本人と家族の)思いを共有している。退院前カンファレンスに参加し、退院後にスムーズに元の生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っている。 入居後は本人の状態に応じて、都度家族を交えて要望を確認し、どのように関わっていくか検討している。	利用開始時、看取り指針を基に説明し、理解は得られている。状況変化が起きた場合には主治医、家族、管理者等で再三にわたり話し合いを持ち、その都度、家族の意向を確認し、方針を共有し、主治医、訪問看護師と連携を取りながら家族の協力も得、チームで支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本人の思いを理解した上で、応急処置や緊急時の連絡体制の確保を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難方法の検討を行っている。	年2回、通報、消火、避難誘導等の訓練を実施し、慌てず速やかに対応できるよう、個々の実践力を身につける様取り組まれている。避難場所の確認もされ、水害についての話し合いを行っている。コロナ禍の為、近隣の方への周知はできていないが、協力体制は築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の歩まれてきた人生を知り、その方を知っていくことを大事にし、職員との方との信頼関係も考えた声掛けを行っている。	個々の生活歴に沿った声かけや対応すると共に人生の先輩であり、年上の人という事を常に念頭にその人の尊厳を大切に支援を行う様周知されている。研修も行き、ミーティング等でもその都度話し合いを持ちプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人が行きたい場所、やりたいことを必ず叶えること、その中で次に繋がる希望や思いを言っていただけるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にとっての当たり前の生活を把握するため、年表作成や実際に自宅に行き生活空間を把握しそれに近づけていくような取り組みをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの店やお気に入りのファッションを聞きとり、実際に買い物に行ったりする中でこだわりなどを知ることができるようにしている。美容室などは(密にならないように)できるだけ馴染みの店に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者主体で食事作りを行い、各家庭の味付けを教えてもらったり、得意料理を作るなどの取り組みを行っている。	利用者の意見や好みを聞きながら、下ごしらえから盛り付け等、職員と共に準備されている。その時々季節を感じてもらい、旬の食材を味わってもらおう努めている。キザミ、ミキサー、トロミ等、身体状況に合わせた形態で食材の話や食を促す声かけを行い食が楽しみとなる様務めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量の把握はもちろんだが、その日の心身の状態やその方の今までの食事習慣を大事にし、食べたいもの、飲みたいものを用意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その日の本人の気持ちや状態によって臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どんな方でもトイレで気持ちよく排泄ができるよう、排泄パターンやシグナルを把握し、その方の行きたいタイミングでトイレに行けるよう取り組んでいる。	日中は、個々の時間帯や表情等で声かけ誘導し、トイレでの排泄に努め、座位や立位をする事で機能維持に努めると共に生活習慣を活かした支援を心掛けている。又、立位が難しい方も2人介助でトイレでの排泄に取り組まれている。自立の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬に頼らず、自然排便ができるよう食事メニューの検討や個別での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入りたいタイミングで気持ちよく入っていただけるように、入る日や回数を固定せず、本人に希望を聞きながら入浴している。	週2回、時間帯は決めず、希望を大切にしている、また、湯温やシャンプーの希望にも対応し、入浴が楽しみとなる支援を心掛けていると共に一人ひとりお湯は入れ替えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や気分によって休んでいただいている。その方が寝たいタイミングで寝られるよう、職員目線で誘導しないようマニュアルや研修で周知している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用はもちろんその都度、家族、本人、主治医、薬剤師と相談し変更や中止をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のことを深く知り、その中で特技や好きなことを自信をもってやっていただけるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも外に出られるよう、原則玄関のカギはしていない。本人の気持ちを大切にし、出たいときに外に出られるようにしている。	コロナ感染予防の為、以前の様には外出支援はできていないが、ドライブでリンゴ狩りや近くの土手の桜を見に行かれたり、近隣を散歩する等、季節や五感刺激となる支援に取り組まれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物の際、自身で行いたい方は支払いをご自身でできるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるよう対応している。 手紙を書きたい希望があれば、便箋と一緒に買いに行くところから行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の落ち着ける空間、暗い場所や明るい場所、狭い場所や広い場所等職員間で工夫しながら落ち着ける空間を作っている。	玄関には季節のお花も生けられ、日々の暮らしの写真付きのホーム便りが置かれている。リビングも広く対面キッチンからは食事準備の音や匂いが五感刺激となる。壁には季節ごとの作品も飾られ、その時々を季節を感じてもらっている。又、ソファや畳スペースもあり、好きな場所で過ごせる。不快な匂いもなく快適に過ごせる共有の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味部屋や和室、畑や花壇など様々な居場所があり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実際に自宅へ行かせていただき、間取りや配置を知りそれに近づくこと、本人の大切にされているものを持ち込んでいただき、その人が過ごしやすい居室づくりを心掛けている。	テレビ、寝具、収納ケース、また家族との思い出の写真や本等が持ち込まれ、自宅に近い環境づくりをされ、違和感なく穏やかに過ごせるよう工夫されている。カレンダーや時計もあり時の認識に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事やミシンなど、その方の得意なことを当たり前に行えるように支援している。また、その人ができることを職員が信じることで、その方のできることが増やせるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが			○	②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームふれあいの家

## 目標達成計画

作成日: 令和 6 年 2 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	会社の理念の共有について理念の内容が常にスタッフの目に付く場所に掲示されていなかった。	全スタッフが理念を共有できるように理念を掲示する。	玄関か事務所に理念を掲示する。	1週間
2	24	コロナ禍により自宅訪問が出来ていない状態であった。	担当者と本人による一時帰宅を行い、その人の生活歴を把握できるよう努める。	お墓参り等の年間行事をきっかけに自宅訪問を行いご家族からお話を聞いたり、自宅の環境を把握する。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。